



ご紹介

イメージの語り手 フセイン・アルムーサウィ&モナ・アルグワイズ

ジャガー・ルクルトの「メイド・オブ・メーカーズ」プログラム™を通じた
写真を再構築する芸術的コラボレーション

概要：

- ・ **第8の芸術を再構築**：撮影も生成も簡単に可能となった時代に想像する写真の未来
- ・ **時を超えた対話**：フセイン・アルムーサウィの写真が記憶と原点に根ざし、モナ・アルグワイズによる AI を活用したデジタル手法は遺産を思索的な未来へと投影
- ・ **「BRIDGE IN TIME - 時の架け橋」**：歴史的なアラビア建築の象徴に着想を得た 5 点の没入型アート作品。過去、現在、未来が共存する作品

2026 年、写真は誕生してから 200 年を迎えます。しかしこの AI 時代に、イメージ制作はかつてないほどの課題に直面しています。アラブ首長国連邦出身の写真家フセイン・アルムーサウィと、サウジアラビア出身の人工知能デジタルアーティストであるモナ・アルグワイズが、ジャガー・ルクルトの「メイド・オブ・メーカーズ™」プログラムに創造的な才能をもたらします。フセイン・アルムーサウィの写真は、建築や装飾から都市の細部に至るまで、中東の伝統的なデザインコードを捉え、モナ・アルグワイズはデジタル技術を用いて、その写真を思索的で未来的な環境へと投影します。

クラシックアートの限界に挑戦

「メイド・オブ・メーカーズ™」プログラムは、ウォッチメイキングとアートの世界を結びつけ、創造性、専門性、精度というジャガー・ルクルトの価値観を共有する時計づくり以外の分野のアーティスト、デザイナー、職人とのコラボレーションを促進しています。このプログラムでは、クラシックアートを変化のないもの、あるいは過去に縛られたものとして捉えるのではなく、その絶え間ない改革を強調し、今日の創造性を導き出す源泉として称えることに挑戦します。今日クラシックと呼ばれるものが発表当初は前衛的だと見なされていたのと同様、「メイド・オブ・メーカーズ™」プログラムでは、伝統的な形式や技法が、新しい素材やメディアによってどのように再構成されるかを探索し、過去と現在の対話に新たな視点を提供します。ジャガー・ルクルトの時計職人のように、アーティストたちは限界を押し広げ、新たな地平を開拓しながらも、創造性の基盤として伝統を尊重し、ウォッチメイキングとクラシックアートの両方がいかに人間の創造性を表現し、時代の文化を反映し、感情を引き起こすかを浮き彫りにしています。



今日までに、「メイド・オブ・メーカーズ™」コミュニティには、アーティストのザイムーン（スイス）、マイケル・マーフィー（米国）、ギヨーム・マルマン（フランス）、レタリングアーティストのアレックス・トロシュート（スペイン/米国）、パティシエのニーナ・メタイエ（フランス）、ミクソロジスト（バーテンダー）のマティアス・ジルー（フランス）、デジタルメディアアーティストのイーユン・カン（韓国）、ミュージシャンの TOKIO MYERS（英国）、マルチメディアアーティストのブレンディ・ワイディンガー（米国）、シェフのヒマンシュ・サイニ（インド）、ストリートライトペインターのロイ・ワン（中国）、建築家のアブダッラ・アルムッラ（UAE）、調香師のニコラ・ボンヌヴィル（フランス）、デザイナーのハリド・シャファール（UAE）、シェフ・ショコラティエのマチュー・ダヴォワヌ（フランス/スイス）、アニメーション映画監督のジャッキー・ワン（中国）、ウェブコミックデザイナーのリリー・メイ・カタン/Olivecoat（フィリピン）が登場し、現代ビジュアルアート、ガストロノミー、音楽、香水の世界を展開してきました。フセイン・アルムーサウィとモナ・アルグワイズ（UAE）との新たなコラボレーションにより、「メイド・オブ・メーカーズ™」のポートフォリオに、写真による解釈が加わりました。

写真から没入的な映像へ

写真はここでは出発点として存在しています。それは、現実の場所、建築形態、生活環境を捉え、記憶を現在に定着させる観察媒体。これらの現実を映し出す具体的な断片から、第 2 の創造の層が展開していきます。

画像は、AI を活用したデジタル手法を通じて、修正や置き換えが行われるのではなく、拡張されます。それが没入感を生み、表面的に見るものではなく、入り込むための空間となります。建築は物理的な限界を超えて広がり、時間は自ら折り重なり、見慣れた形態は思索的な未来へと投影されます。

このプロセスによって生まれるのは、アーティストたちが没入型の映像と定義するもの。写真は時間を超えて構築され、多層的な視覚体験へと進化していくのです。未来は過去を消し去るのではなく、そこから大きく広がります。過去、現在、未来がひとつの視覚的な連なりの中に共存することにより、伝統を静止した状態で保存するのではなく、絶えず再解釈し続けるというジャガー・ルクルトの時計づくりの哲学を映し出しています。

イメージの語り手

アラブ首長国連邦出身のマルチメディアクリエイター、フセイン・アルムーサウィは、デザイン、写真、ビジュアル・ジャーナリズムを横断する幅広い分野で 20 年以上の経験を有しています。キャリアを通して、アラブ首長国連邦の都市景観を再発見するという探求を続け、見過ごされがちな近代建築を体系的に記録しています。

サウジアラビア出身のエンジニア兼デジタルアーティストであるモナ・アルグワイズは、人工知能、文化遺産、そして思索的なデザインの交差点を探究しています。その手法を通じて、風景や建築形態、集合的記憶を再構想することで、親しみのある環境を未来的な視覚の物語へと変容させています。



テクノロジー、デザイン、文化的ストーリーテリングが交差する領域で表現を展開し、サウジアラビアの建築環境と自然環境を、新たな未来像へと再構築しています。

「BRIDGE IN TIME - 時の架け橋」：過去と未来が共存する 5 つの複合的なイメージ

「BRIDGE IN TIME - 時の架け橋」の制作にあたり、フセイン・アルムーサウィとモナ・アルグワイズは、過去と未来が互いに流れ込む没入的な作品を創り出し、第 8 の芸術に新たな視点をもたらしています。その作品は、都市に刻まれたモチーフと想像上の都市景観を対峙させることで、文化遺産を保存しながら、AI のような革新や新たなツールをどのように受け入れるべきかといった、継続性と変容の対話を表現しています。これは 2 世紀にわたって築き上げられてきたアイデンティティを守りつつ、形態、素材、技法を絶えず革新し続けることを目指すジャガー・ルクルトの使命に共鳴しています。その結果、過去と未来が同一の視覚平面の中で共存する一連の複合的なイメージが生み出されました。

The Courtyard（中庭／バブ アル シャムス）：人々を迎え入れ、交流が生まれる集いの空間。人々の生活の中心となる場。

The Threshold（閾／エキスポ ポータル）：内省へと向かう意識の変化を刻む、通過の瞬間。

The Bridge（橋／インフィニティブリッジ）：世代を超えて受け継がれる、繋がりと継承の象徴。

The Coral Wall（珊瑚の壁）：アラブ首長国連邦の沿岸建築における珊瑚石の歴史を背景に、時間の痕跡や回復力、再生を体現する建築的存在。海と陸を繋ぐ象徴。

The Mosque（光のモスク）：精神性と共同体により、時間に秩序と律動を刻む場。

ドバイでのパブリックアートのインスタレーション

「BRIDGE IN TIME - 時の架け橋」は、国内発のコンセプトと文化的エネルギーで知られる活気ある屋外スポット、ナド アル シェバ スクエアにてパブリックアートのインスタレーションとして展示されます。キュレーションされた旅として構想されたこのインスタレーションでは、フセイン・アルムーサウィとモナ・アルグワイズのアート作品 5 点と、厳選されたレベルソのタイムピースが披露されます。3 月 3 日のイフタール（断食明けの食事）から一般公開され、イード・アル＝フィトル（断食明けの祭り）までご覧いただけます。

フセイン・アルムーサウィについて

アラブ首長国連邦出身のマルチメディアクリエイターであるフセイン・アルムーサウィは、デザイン、写真、ビジュアル・ジャーナリズムを横断する幅広い分野で 20 年以上の経験を有しています。2007 年、クイーンズランド・カレッジ・オブ・アートで学士号を取得後、「The Letter D」およびブリスベン博物館にて、デザイン分野におけるキャリアを歩み始めました。その後、メルボルンのスウィンバーン大学にてコミュニケーション・デザインの修士号を取得。在学中には、同市における複数の都市を形づくる建築や空間を記録するプロジェクトにも



取り組みました。2013 年にアラブ首長国連邦へ帰国後は、アブダビ・メディア傘下の新聞社『The National』をはじめとする複数のメディア・プラットフォームにおいて、インフォグラフィック・アーティストおよびコンテンツ・クリエイターとして活動。並行して、アラブ首長国連邦の都市景観を再発見するという探求を続け、見過ごされがちな近代建築を体系的に記録しています。

モナ・アルグワイズについて

サウジアラビア出身のエンジニア兼デジタルアーティストであるモナ・アルグワイズは、人工知能、文化遺産、そして思索的なデザインの交差点を探究しています。その手法を通じて、風景や建築形態、集合的記憶を再構想することで、親しみのある環境を未来的な視覚の物語へと変容させています。主に AI を活用したツールを用いて、伝統と先進的な美学を融合させ、没入的なデジタル作品を展開。遺産を静的な表現ではなく、未来の想像力を育む生きた基盤として位置づけています。未来像として描かれる砂漠建築や想像上の文化空間など、一連の先駆的なプロジェクトで評価を受けるモナ・アルグワイズは、テクノロジー、デザイン、文化的ストーリーテリングが交差する領域において制作を重ねながら、サウジアラビアの建築環境と自然環境を、新たな未来像へと再構築し続けています。

「メイド・オブ・メーカーズ™」について

「メイド・オブ・メーカーズ」プログラムは、時計製造以外の様々な分野のアーティスト、デザイナー、職人たちのコミュニティを一つにまとめます。ウォッチメイキングとアートの中に存在する対話を拡大するこのプログラムは、創造性、専門性、精度といったジャガー・ルクルトを常に定義してきた基本原則を土台としています。このプログラムは、ジャガー・ルクルトの価値を共有し、様々に異なる、時には予期せぬ素材や媒体を通じて、表現の新しい形を探求する作品作りをしているワールドクラスのクリエイターたちにフォーカスしています。毎年、ジャガー・ルクルトが世界各地で開催する展覧会に、プログラムを通じて制作された新作が登場し、選ばれたテーマを発展させ、観客がアートや技巧、デザインに関する幅広い話題に加わる新しい機会を作り出します。

ジャガー・ルクルト - ウォッチメーカーの中のウォッチメーカー™

1833 年以来、ジャガー・ルクルトは、革新性と創造性への抑えきれない渴望に導かれ、故郷ジュウ渓谷の平穏な自然環境からインスピレーションを得て、複雑機構への熟練した技術とその精度で際立った存在となっています。ウォッチメーカー™ の中のウォッチメーカーとして知られるマニュファクチュールは、1,400 を超えるキャリバーの制作と 430 以上の特許を通して、その絶え間ない革新の精神を表現してきました。ジャガー・ルクルトの時計職人たちは、190 年以上にわたる蓄積された専門知識を駆使して、最先端の精密なメカニズムの設計、製造、仕上げ、装飾を行い、何世紀にもわたるノウハウと情熱を融合させ、過去と未来をつないでいます。時代を超え、常に時と共にあります。180 種類もの専門技術がひとつ屋根の下に集結したマニュファクチュールは、その技巧に、デザインの美しさと独特で控え目な洗練とを組み合わせ、高級時計に息吹を吹き込んでいます。